

サシバの全国繁殖状況調査 結果速報

写真 内田博

財)日本野鳥の会・日本オオタカネットワーク
岩手大学保全生物学研究室・バードリサーチ

サシバの全国繁殖状況調査にご協力いただき、ありがとうございました。104名の方々にご協力いただき、全国の35都道府県より91件の生息状況調査の情報、185件の繁殖状況調査の情報をいただきました。以下にその結果をご報告いたします。

調査の背景と目的

近年、サシバが減少しているという報告がいくつも出ています。そのような報告を受け、2006年12月に環境省から発表された新しいレッドリストでは、サシバは絶滅危惧Ⅱ類にリストアップされました。

しかし、サシバの現状がわかっているのは一部の地域や渡りの通過数のみで、全国的な状況がしっかり把握されているわけではありません。そこで、サシバの全国的な生息状況と繁殖地の環境特性を明らかにし、サシバの置かれている状況や保護のために必要なことを明らかにしたいと考え、アンケート調査を実施することにしました。

調査の方法

2007年9月から11月にアンケート調査を実施しました。

アンケートは2種類あり、地域のサシバの生息状況について聞き取る「生息状況調査」とつがい単位に繁殖成績や生息環境、営巣木などを聞き取る「繁殖状況調査」を行ないました。

アンケートの対象は1998年に実施したサシバのアンケート調査の回答者、日本野鳥の会の支部およびサンクチュアリ、日本オオタカネットワークとバードリサーチの会員です。

東北ではあまりサシバは減っていない？

寄せられた91件のアンケートにはサシバが増えているという回答はなく、減っている・変わらない・不明のいずれかの回答でした。

図1に県別に、図2に地域別に生息数の増減を示

しました。1つの県で変化なしと減少の回答があった場合には、一方がずっと多い場合にはそちらを採用しましたが、差が小さい場合は、不明として示しました。これを見ると、サシバは全国的に減っていますが、東北では減っていない県もあります。九州でも図2から、変化がないという回答が多いことがわかります。九州のサシバの減少度合いも小さいのかもしれませんが。なお、東北地方の減少が少ないことは1998年のアンケートでも示されています。

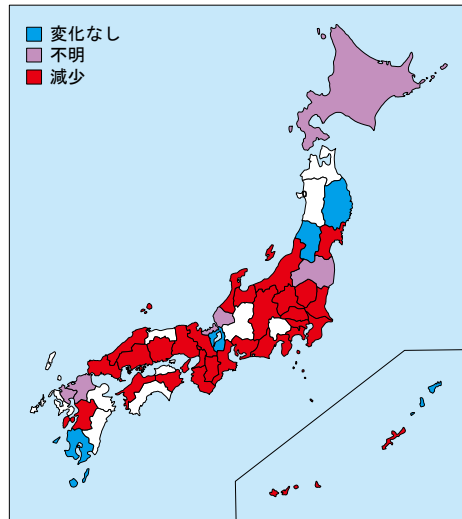


図1. 県別のサシバの生息数の増減。鹿児島および沖縄は越冬期の記録

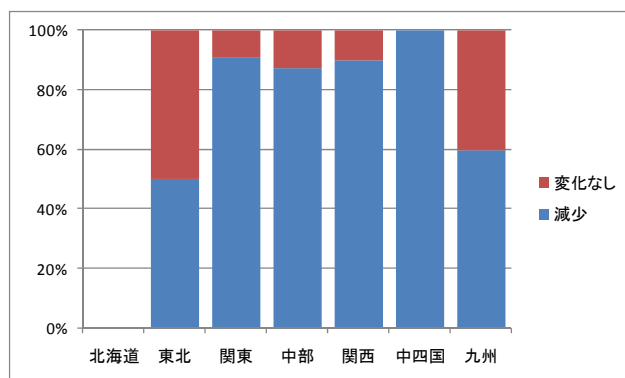


図2. 地域別のサシバの繁殖生息数の増減。

減少しつづけているサシバ

サシバが減少をはじめた時期について図3にまとめました。直近の10年は5年ごとに分けて情報収集しているの、これをあわせると、サシバの減少は最近10年が一番多いということになります。もちろん、記憶が新しい最近の方が過大評価されやすいことありますが、サシバの減少が現在もつづいていることは確かのようにです。

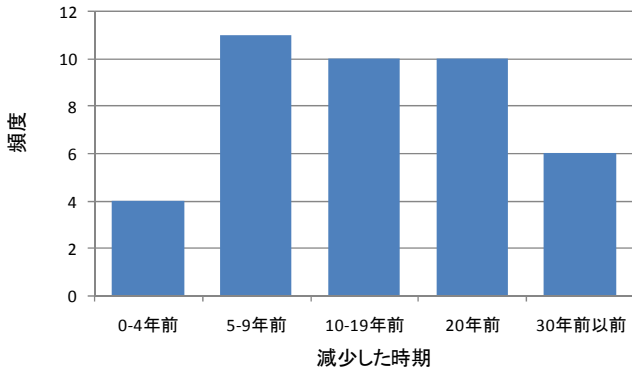


図3. サシバの減少が始まった時期

最近では耕作放棄と捕食者が問題に？

上に示したサシバの減少時期と考えられる減少の原因をあわせて図4にまとめました。

サシバの減少の原因として多くあげられたのが開発と耕作放棄です。開発は特に10～20年前の減少原因として多くあげられました。この頃はちょうど1990年代前半のバブル景気の時代にあたるので、開発が多く行なわれ、生息地の消失からサシバが減少したのだと思われます。それに対して耕作放棄は最近10年で大きな割合を占めるようになりました。開発が下火になった代わりに、過疎化や生産効率の悪い谷津田の放棄が生息環境減少の最大の原因になったのだと思われます。あわせて増加していたのが捕食者の問題です。捕食者としてはカラス類とオオタカがあげられていましたが、これらの捕

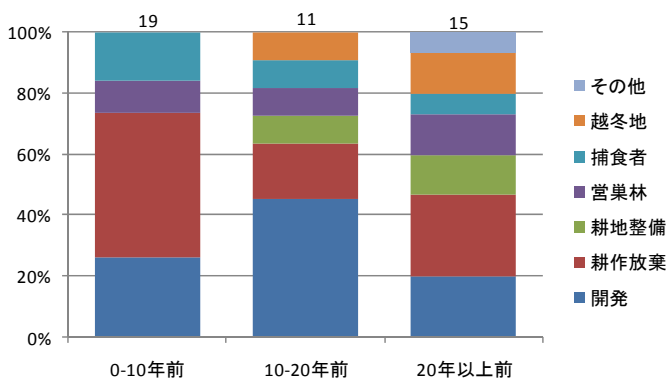


図4. サシバの減少が始まった時期とその原因

食者によりサシバが繁殖に失敗しており、それが減少の原因になっていそうだとことです。

樹林地帯での繁殖も意外に多い

サシバの繁殖が確認された場所の環境を図5に示しました。谷戸での繁殖が半分程度を占めるなど各地域とも多いのですが、樹林地帯での繁殖も意外に多く記録されました。図から東北では樹林地帯で繁殖しているサシバが多いのが読み取れますし、九州でその他になっているものも樹林がちなところが多く樹林での繁殖が多いようです。また滋賀県からは谷戸のサシバは減少傾向にあるものの、樹林地帯では逆に増えていそうだとの情報も寄せられました。

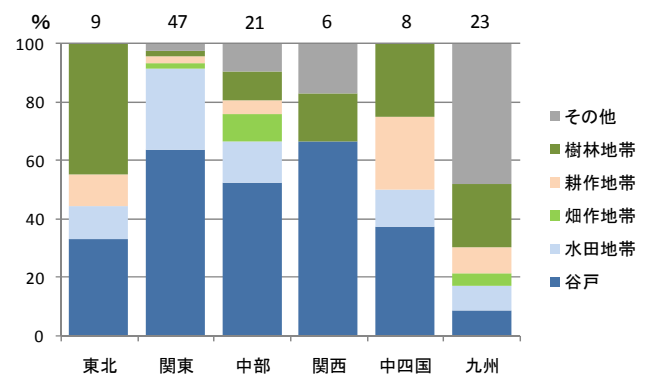


図5. サシバの地域別の生息環境。数字はN数。

東北地方は繁殖成績が良い？

サシバの地域別の繁殖成績を図6にまとめました。関西地方は情報が少なかったため、ここには掲載していません。繁殖に失敗したものを含む全巢の平均巣立ちヒナ数と、少なくとも1羽のヒナが巣立った巣での平均巣立ちヒナ数を示しています。関東と九州には熱心にサシバを調査されている方がいらっしやだったので、繁殖失敗までしっかり記録をとることができていて、全巢での繁殖成績が他地域と比べて低くなっていますが、繁殖に成功した巣で

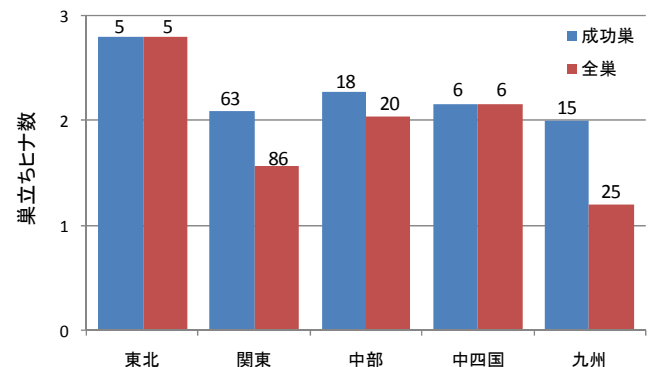


図6. サシバの地域別の繁殖成績。数字はN数。

は、東北地方を除くと概ね2羽程度と、差がありませんでした。ただ、東北地方では3羽弱と他地域よりも多い傾向が見られました。ここで対象とした巣は5巣と少ないのですが、岩手大学保全生物学研究室の調査でも巣立ちヒナ数が多いことがわかっており、東北地方は繁殖成績が良いようです。東北地方はサシバの分布の北限なので、普通に考えると繁殖成績が悪そうに思います。しかし結果はその逆です。岩手大学保全生物学研究室ではその理由について調査していますので、近い将来その理由を発表できると思います。

なお、このサシバのアンケートと並行して行なっているオオタカのアンケート調査でも、北ほど繁殖成績が良いことが示されています。

北ほど繁殖時期が早い？

サシバの地域別の巣立ち時期を図7に示しました。東北地方は6月下旬に巣立ちつものが多く、関東地方が6月下旬と7月上旬、それより西の地域は中四国を除き7月上旬と、北に行くほど巣立ち時期が早い様子が見受けられます。

春先の食物不足や低温や積雪などが繁殖の制限要因になっているとすると北に行くほど繁殖が遅くなるはずなのですが、そうならないところを見ると、別の原因が考えられそうです。岩手大学保全生物学研究室の調査から、岩手のサシバが繁殖に必要とする日数が短いことがわかっています。繁殖成績とあわせて考えると、北の方が食物が豊富で、そのため短い日数で繁殖できるために巣立ち時期が早いのかもかもしれません。繁殖開始時期はサシバを熱心に見ている人以外はなかなかわからない情報なので、今回は収集しなかったのですが、そのような情報もあつめて、北ほど繁殖が早い理由を明らかにしていきたいと思えます。

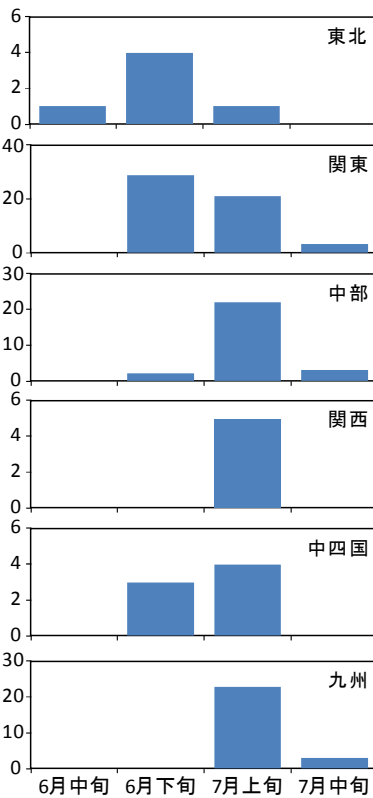


図7. サシバの地域別の巣立ちの時期

アカマツとスギで繁殖

サシバの地域別の営巣樹種を図8に示しました。全国的にアカマツとスギで繁殖することが多く、中部地方でスギが多いこと、九州地方でもスギが多く、常緑広葉樹も使われることが特徴でした。同様の傾向はオオタカでも見られていて、営巣木として利用可能な樹種およびその現存量に地域差があるのかもかもしれません。

1998年のアンケートと比べても樹種構成に大きな変化はなく、松枯れが進んでアカマツが減ってスギでの営巣が増えるなどといったことは、広範囲では起きていなさそうです。

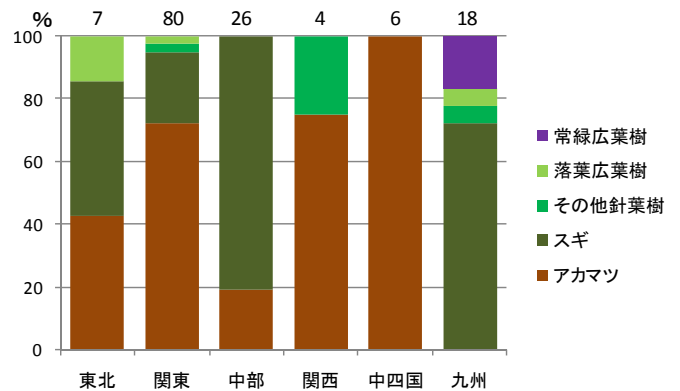


図8. サシバの地域別の営巣樹種。数字はN数。

水田と斜面林で採食

サシバの採食場所を図9に示しました。複数回答認めているので、全てを足すと100%を超えますが、水田および畦、そして斜面林が重要な採食地になっていることが伺えます。谷戸以外の場所を含めてもこのような結果になることから、サシバにとっての谷戸が好適な生息環境であることが伺えます。

1998年のアンケート結果でも同様の傾向が示されていますが、斜面林については今回の調査結果の方が多くなっていました。

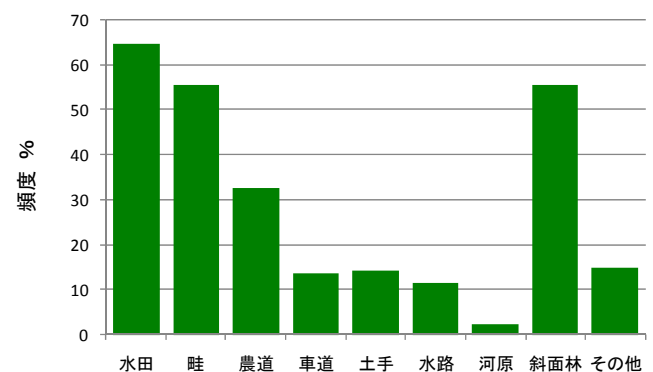


図9. サシバの採食環境

今回わかったこと

今回のアンケートから、サシバが減少し続けていること、その原因として耕作放棄や捕食者の影響が大きくなってきていることが見えてきました。谷戸の水田は生産効率が悪く、耕作放棄されがちです。谷戸が重要な生息地であることは、今までの研究からも示されてきましたし、今回のアンケートでも示されました。今、豊田市自然観察の森が取り組んでいる谷戸の回復の取り組みのように、谷戸を維持していくことがサシバの保護のために必要です。しかし、日本中の谷戸でそのような活動をするのは不可能です。今回のアンケートでは、谷戸以外にも多くの繁殖地があることが示されました。そのような場所でのより詳細な生息状況、繁殖成績などを明らかにして、谷戸以外でどのようにサシバを保護していけるかを考えていくことも重要に思います。今後、お教えいただいた営巣地の位置や繁殖成績の情報をつかって、そのような解析をしていきたいと思っています。

そのような解析をあわせ、今回の結果は論文にまとめたいと思います。解析の過程で、またいろいろお聞きすることが出てくるかもしれませんが、その際はよろしく願いいたします。論文にまとまりましたら、またご報告させていただきます。

今回のアンケートでは、以下の皆様のご協力をいただきました。お名前を記してお礼に代えさせていただきます。

秋山勁三、浅川千佳夫、東陽一、有馬健二、池野進、伊関文隆、市田豊子、稲森郁子、井上賢三郎、井上勝巳、今井正、今村克之、今森達也、植田睦之、植竹孝、梅木賢俊、江崎逸郎、越後弘、大沢八洲男、太田峰夫、奥野俊博、粕谷和夫、加藤恵美子、鐘ヶ江勝實、冠木忠之、亀井陽太郎、川口久美、川島賢治、川瀬浩、桑原久男、小荷田行男、小室智幸、近藤健一郎、紺野竹夫、斉藤実、堺義明、斉藤剛、佐藤哲、佐藤尚弘、佐藤仁志、篠原喜運、柴折史昭、島林修、杉内鉄幸、杉山道夫、鈴木滋、住友順子、高木博敏、高野正、高橋邦

年、高橋 知明、高柳茂、田口 慎、田澤一郎、立花繁信、谷畑藤男、千葉昌孝、塚越 徹、東京港野鳥公園、豊島直美（福島県自然保護G）、永井健介、長嶋宏之、永松 愛子、中村昌義、中本一雄、名倉秀明、西野一雄、西村四郎、沼野正博、野紫木洋、野中 純、初野 謙、林克之、原田量介、平野敏明、広塚忠夫、藤本賢二、船瀬茂信、星野 純、本田忠治、前迫大也、末崎 朗、水野重紀、宮崎八洲雄、村瀬貞彦、村濱史郎、森 要、森本嘉人、築川堅治、柳瀬昭彦、山崎 亨、山田真久、山根靖正、山本 悟、横田敬幸、吉井 清、渡辺修治、渡辺晋一郎、渡辺孝雄、渡部 通、渡辺 央、渡辺将視、渡辺美郎、また内田博さんからは写真を提供いただきました。ありがとうございました。



写真、サシバの雄と雌。撮影 内田博